

注意 茲ニ掲グル書目ハ、展覽會當日全部瀧本氏ノ出品サレタルモノニシテ、其解説ハ當時氏ガ其出品箋ニ記入サレタルモノナリ其ノママ採録セルモノ也。

假ニ『舊時代』ノ著作ト謂ヘルハ、西洋ノ經濟學說ノ影響ヲ受ケザル著作ト云フ意味ニシテ、姑ク瀧本教授ノ用語ヲ襲踏セルモノトス。右様ノ次第ナレバ、明治時代ノ編述ニ係ルモノモ、其二三ハ本書日中ニ採録シアリト雖モ、其餘ノモノハ別項本庄學士編『明治以後刊行ノ和書』一斑ニ載ス。(編輯擔任識)

西川如見著 兩城人數考 (原版ハ享保五年)

日本及支那ノ土地ノ廣狹ニ對比シ人數ニハ一定ノ常數アルコトヲ述ヘタルモノナリ

本書ハ日本水土考ニ附刻シ又、西川如見遺書第九編ニモ收ム山鹿素行著 山鹿語類 詳民戶 (寛文三年乃至五年ノ著作)

民數ノ蕃息ヲ考ヘ其生ヲ全フシ其養ヲ得セシムルハ民政ノ大本ナル事ヲ論ス(國書刊行會本ニ收ム)

本居宣長著 玉くしげ (寛政元年出版)

日本ハ支那ニ比シ割合ニ人口多シ人口多カラサレバ國ノ富強ヲ期スベカラザルコトヲ述フ

本文ハ駱本玉くしげ及玉くしげ別本ニハ之ヲ省ケリ井上四明著 經濟十二論 (天明七年ノ著作)

農民減少シテ農業ノ衰退セルヲ説キ且墾胎棄子等ノ弊風ヲ矯正セサル可ラサルコトヲ論ス(日本經濟叢書ニ收ム)

松浦桂川著 桂川答問書 (天明寛政頃ノ著作)

對州ノ人數大ニ減少シタルヲ患ヘ之ニ對スル政策ヲ説ク著者不明 食貨志 (著作年代不明)

日本歷代戸口ノ増減等ヲ詳ニシテ其ノ取捨ニ關スル政策ノ沿革ヲ記シ且課丁ト田租トノ關係等ヲ詳論シタルモノナリ

本書ハ豐田天功ノ起草セル大日本史食貨篇ノ草稿ヲ寫シタル

第六類 人口ニ關係アル和漢ノ書籍

(Japanese and Chinese Works on Population)

第一、舊時代ノ和書一班

同志社大學教授 瀧本誠一編

まるさす及ヒ人口論關係書目 二二

第二卷 第五號

モノナランカト思ハルルモ明確ナラズ
横山由清著 食貨志略卷二、戸口ノ事
水戸家編輯 大日本史 (食貨三)

日本神代ヨリ王朝時代ニ於ケル一般ノ戸口及課丁ニ關スル制度等ナ沿革的ニ詳述シタルモノナリ
松平定信著 國本論附錄 (天明頃ノ著作ナルベシ)

周禮大司徒ノ職ヲ述ベ人民ヲ蕃息安養スルノ要ヲ説ク
中井竹山著 草茅危言(活字本及富岡鐵齋氏校小形本共内田博士所藏)(日本經濟叢書)ニモ收ム
神准孝著 草茅危言摘義

幕府ハ人別帳ヲ造ルヲ委任セシメタルヲ非議シタル中井竹山ノ意見ナリ是ナリトシ備前ニテハ各村ノ里正ニ人別帳ヲ出サシメテ軍役ノ用ニ供シ商人ニハ一切軍役ニ與カルノ權利ヲ與ヘサリシ事ヲ述ブ

岡熊臣著 兵制新書

上古王朝時代ニハ田制正クシテ人口非常ニ多ク土地ノ廣大ナル支那ニ比シ大底同數ナリシニ佛法ノ渡來ト同時ニ唐ノ文物ヲ輸入シテ風俗驕奢ニ赴キ人口次第ニ減少シタリト云フ事實ヲ論ジ東洋ノ制度通ニ昔ノ一郡内ニ戸數ノ少ナカリシヲ觀テ人口モ亦隨テ少ナカリシ様ニ記シタルハ全ク上代ノ事實ヲ知ラサル誤トシ昔ノ令制ノ一戸ト云フハ今ノ百姓三四軒以上ニ準ジ一戸ノ内ニ家ノ子ナド口數頗フル多カリシコトヲ辨明シ終ニ著者カ古記録ニ依テ勘考シタル所ニテハ延喜頃(今日ヨリ凡一千年前)ノ人口ハ五千餘萬人アリ孝德帝以前ニハ尙其レヨリズツト多カリシナルベク又隆平一條帝頃(凡九百年前)ニハ二千五百萬人ニ減ジ天文文祿ノ頃ニハ此ヨリ尙一層減少シタルナルベシト説キタルモノニテ事實ノ眞偽ハ瓦モ角一々古記ヲ考證シテ古今ノ増減ヲ詳論シタリ
(寛政四年ノ著作)
菟戶太華著 倭人建議

米澤ノ鄉村非常ニ疲弊シテ田畑ノ荒蕪ニ歸スルハ農民ノ減少ニ基因スルモノナリトテ人口ノ蕃息安集ノ法ヲ建議シタルモノナリ

著者不明 こがれのはなし (著作年代不明)

蝦夷ナド開發スベキ土地多クシテ人口ノ播殖ヲ必要トスル時ニ當リ日本諸國ニ墮胎引等ノ行ハルルハ尤モ然ル可ラサルコトナレバ之ヲ嚴禁シテ貧困者ニハ小兒ノ養育料ヲ給スベシト説ク

大江幸彦著 經濟新論 (安政二年ノ著作ナルベシ)

人口年々ニ蕃殖スルト共ニ都下ニ於ケル遊民ノ數大ニ増加シ破産流亡ノ徒多キヲ以テ此等ノ者ヲ一々検査シテ健康ナル者ハ各地方ヘ送りテ荒蕪地ヲ開墾セシムベシトノ意見ヲ述ブ
著者不明 農業小兒示教(著作及出版年代不明)

農業ニ不出精ニシテ困窮ニ陥リタル結果生兒ヲ「戾ス」(開引)ナドト稱シテ殺メ殺スコトハ人倫人情ニ於テ有ルマジキコトナリト論ジ著者ノ國ニテハ困窮者ニハ小兒四歲マデノ養育料ヲ給與セラルル事ニナリ居ルコトヲ述ベ且其國ニテハ女子ヲ開引ク惡習アリテ出生スル者ハ男子ノミ多ク女子ノ出生ハ八十人ニ一人モナカルベシトノ事實ヲ記ス

著者不明 ふもこの上 (天保頃ノ著作ナルベシ)

國政ノ善惡ハ百姓ノ家數ノ増減ニテ察知スベキコトヲ述ベ著者ノ國(紀州藩ナルベシ)ナドモ古ニ比スレバ今ハ大ニ戸數減少シテ農村ノ衰微シタル事實ヲ記ス

高橋保水著 勝手經濟錄 (文政八年ノ著作)

小兒出生ノ時ヨリ十五歳ニ至ルマデノ養育費ヲ詳細ニ見積リタルモノナリ今日ヨリ凡九十年前ノ見積ニテ大ニ參考トスルニ足ルモノアラシ

著者不明 沿革戸籍考

崇禎帝以降醍醐帝ニ至ル迄ノ戸口ニ關スル沿革事蹟ヲ述ベ其

レヨリ徳川時代ノ人口ニ付キ種々ノ考證チナン寛延三年ニ於ケル日本全國總人數ノ國別表及文化元年ノ諸國人數帳ヲ掲ケ又明治五年以後同十五年ニ至ル迄ノ戸口表及其ノ増減表ヲ示シテ最モ詳細ニ考證シタルモノナリ中ニ東大寺正倉院ノ古文書ニテ有名ナル筑前嶋郡川邊里ノ戸籍表(今ヨリ一千二百年前ノモノ)等ノ寫ヲ載セタリ

栗田寛著 戸籍考

「栗田先生雜著」ノ中ニ入りアル外ニ早ク單行ノ刊本モアリ編者不明 上總國武射郡富田村高家數人別小兒出生高取調帳其外十種綴込

此ノ綴込中「間引流行後田畑荒地多相成候始末書」ハ間引流行ノ爲メ人別減少シテ泰公人ノ給金高直ニナリ隨テ荒蕪地増加シタル顛末ヲ記シ又「房總三ヶ國豊高取調帳」ハ直接人口ニハ關係ナキモ村民ノ日用品ノ消費額等ヲ見積リタルモノニテ多少參考ニナルベキモノナリ

米澤屋源八外二人施板 子孫繁昌手引草

(明治六年出版)

「子かへし」展す「間引」ナド皆子ヲ絞メ殺スコトニテ此ノ惡風ハ明治初年ノ頃マデ尙大ニ行ハレ居タルモノト見ヘ施板者ハ此ノ書ヲ出版流布セシメテ此ノ惡風ヲ矯正セントシタルモノナルベシ「貧乏人ハ子ユエニ貧乏スルニアラズ子ガ生計ノ邪魔ニトラス譯ハ芋ハ子ガ多クレバ多シ程親芋モ太ルモノナル事」ヲ例示シテ子供ノ多キガ親ノ害ニナラサル譯ヲ説キタルモノナリ

寛文十一年日野澤村五人組帳外一種

此ノ「五人組帳」ハ二百四十五年前ノモノニテ殆ント最古ノモノナリ勿論五人組帳ノ開始ハ寛永頃ナルベクレバ此レヨリ古キモノアルベキ筈ナレドモ此ノ以前ノモノニテ現存スルモノハ甚稀ナルベシ

品川縣編 戸籍簿雛形

(明治元年出版)

まるさす及ビ人口論關係書目 一三三

此レハ明治元年品川縣ニ於テ定メタル戸籍簿ノ文案ナルベシ前掲ノ沿革戸籍考ニ依レバ明治年間ノ戸籍人口調ハ同二年四月八日民部省ナリキ戸籍ノ事ヲ總判セラレタルガ其ノ濫觴ノ如ク記シアルモ此レハ其ノ前年ノ雛形ナリ品川縣ハ之ヲ實行シタルモノナルヤ否判然セズ

佐田介石著 栽培經濟論後篇

(明治十二年出版)

著者ハ近世ノ意義ニ於ケル人口論ヲ唱ヘタル先驅者ノ一人ナルベシ本書ニ述フル所ハ生ノ割合ハ死ヨリモ多キコト凡百分ノ七ナルベク死ノ割合ハ生ヨリモ少キコト凡百分ノ三ナリト云フコトヲ根據トシ此ノ割合ニテ人口ノ増殖ヲ計算スレバ明治十二年ノ人口三千五百萬人ハ爾後十八年目(明治三十年)ニハ其ノ倍數即チ七千九百萬三千五百七十七人ニナルト云フ說ナリ而シテ日本ハ近世此ノ多大ノ人口ヲ養フノ田地ナキヲ以テ之ガ制限策トシテ皇族方ヲ始メ華土族庶民ニ至ル迄皆別家ヲ禁シ次男三男四五男アリトモ妻妾ヲ蓄フル事ハ許可スベカラスト云フノ說ヲ主張ス

佐藤信季著 漁村維持法

(安永九年ノ著作)

醫師ハ不漁續キテ錢ニ行詰ルトキ妊婦アレバ直ニ墮胎陰殺スルノ惡習アルニ付之ヲ嚴禁シテ貧窮人ノ亦子ヲ養育スルカ爲メ所クニ養育所ト遊兒場ヲ立ツベシト云フ意見ナリ

佐藤信淵著 經濟要錄

資難錄

(天保十二年ノ著作)

鑄造化育論

(同十三年ノ著作)

垂統附錄

(安政四年ノ著作)

人民ヲ繁息シテ生々ノ道ヲ達クシムルハ產靈ノ神意ニシテ農政ノ目的トスル所ナレバ貧窮ノ爲メニ墮胎陰殺ノ行アル可ラスト云フノ主意ヲ述ヘタルモノナリ

本多利明著 西域物語

(新村博士所藏)

「日本經濟叢書」ニ收ム仔細ハ「經濟大辭書」本多利明ノ項(小

島法文學士) 及ビ『經濟論叢』第二卷連載「木多利明ノ經濟說」

(本庄法學士) ナ見^三

備考 以上ノ外『古事記』(伊邪那美命言、愛我那勢命、爲如
此者汝國之人草、一日竅殺千頭、爾伊邪那岐命詔、愛我那邇
妹命、汝爲然者吾一日立千五百產屋、是以一日必千人死、一
日必千五百人生也云々トアリ)『筑前風土記』『折燒柴ノ記』、
『濟時七疑』爲學初問』一話一言等ニモ人口ニ關スル記事論
說等アリ。尙後ニ掲クル高野^四吉氏編「日本經濟叢書ニ於ケ
ル人口記事」ヲ參照スベシ。(編輯擔任預記)。